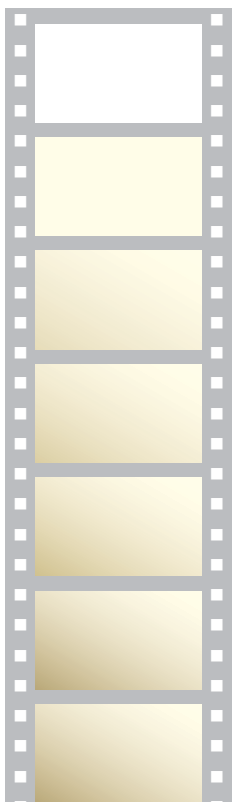


伸^{ノブ}さんのシネマトーク

鈴木 伸夫



第七回 「あこがれのナレーション」

テレビ映画「逃亡者」のイントロダクションは、大別して二つあります。番組の第一話「愛と憎しみの果て」の主人公リチャード・キンブルは、すでに逃走して、視聴者には何が何だか理解できないところから始まるのですが、話数を重ねるごとに、その秘密が明らかになっていきます。第一話のナレーションは、かなり詳しいコメントになっていて、第2話以降、「」部分はカットされています。

映像

プ、プー、警笛

左から右へ、ヘッドライトを点灯した電車が
警笛を鳴らしながら通過する。

Q ナレーションが入る

その夜行列車に背広・ネクタイ姿の二人の男
が並んで座っている。左側の男はリチャード・
キンブル死刑囚。

右側の男はジェラード警部。

キンブルがジェラードに右手で「タバコが喫

Q ナレーション①（矢島正明）

リチャード・キンブル、職業医師。
目的地、州務所の死刑執行室。

リチャード・キンブルは、その妻を殺害
した罪に問われ死刑の宣告を受けた。
しかし、法律は神ならぬ人間の手によっ

「いたい」とジェスチャーで合図をする。
ジェラード警部は、ワイシャツの左ポケットから両切りのタバコを取り出し、キンブルに渡し火をつけてやる。
キンブルは大きくタバコを喫って、車窓を眺める。

ナレーション終る
再び警笛、ブ、ブーそして脱線事故

車両の座席からキンブルが立ち上がる
小川で、ガマガエルが一匹鳴いている。
そこへ小川沿いにキンブルが走って来て、小川に入り顔を洗う。外した手錠の左手が光ってズームアウトする。
トランペットが高らかに鳴る。音楽スタート
タイトル「逃亡者」

Q
出演者紹介
エピソードタイトル

て作られ、人間が執行するものである。
恐るべき誤審はここに生じるのだ。

リチャード・キンブルは無実であった。だが、彼は自分の容疑を晴らすに足る事実を立証できなかった。

彼は妻の死体を発見する直前、片腕の男が家から走り出すのを見たが、しかし、

その男はついに発見されなかった。

彼はこの世の名残りに外を見つめながら、自らの運命をじつと考えていた。窓の外も自らの将来も暗黒だった。

しかし、その暗黒の中に運命の計り知れぬ力が潜んでいた。

全120話の真ん中あたりから、ナレーションと映像が変わりますが、映像はスチール写真がフラッシュバックで入るだけなのでカットします。シリーズ後半のナレーションです。

Q ナレーション② (矢島正明)

リチャード・キンブル、職業医師。

正しかるべき正義も時として言[×]うることがある。彼は、身に覚えのない妻殺しの罪で死刑を宣告され、護送の途中、列車事故に遭って辛くも脱走した。

孤独と絶望の逃亡生活が始まる。髪の色を変え、重労働に耐えながら、犯行現場から走り去った片腕の男を捜し求める。

彼は逃げる。執拗なジェラード警部の追跡をかわしながら、現在を、今夜を、そして、明日を生きるために。

(続)

(文中敬称略)

伸

平成22年10月